立ちどまらない保険。
MS&AD
INSURANCE GROUP

2011年度 第2回インフォメーションミーティング

2011年12月1日（木）

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社

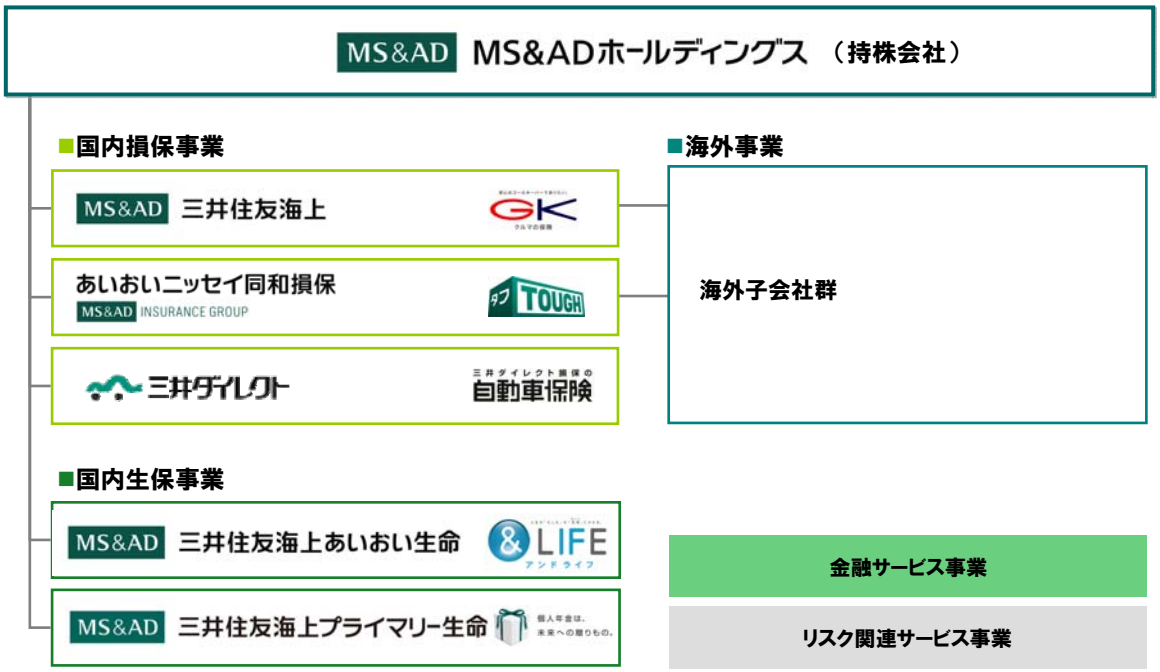
目次

本編

2011年度 中間決算の概要（MS＆ADホールディングス(連結)）	1
2011年度　通期見込（MS＆ADホールディングス(連結)）	2
中期経営計画／グループコア利益の状況	3
統合コストとシナジー効果	4
国内損保事業／自動車保険の収支改善状況	5
国内損保事業／自動車保険の料率・制度改定の動向	6
国内生保事業／三井住友海上あいおい生命	7
国内生保事業／三井住友海上プライマリー生命	8
海外事業／ 2011年度中間期業績と2011年度通期の業績見込	9
海外事業／離陸するアジア生保事業	10
資産運用の状況	11
「時価純資産」と「統合リスク量」の状況	12
資本政策と株主還元方針	13
【補足資料】 資産運用の状況 （三井住友海上） ／ （あいおいニッセイ同和損保）	14

資料編

MS&ADグループの概要



※ 2011年10月三井住友海上きらめき生命とあいおい生命は合併し、
三井住友海上あいおい生命保険㈱に社名変更しました。

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- MS＆ADホールディングス　（＝MS＆ADインシュアランス グループ ホールディングス㈱）
- MS＆AD、MS＆ADグループ　（＝MS＆ADインシュアランス グループ）
- MSIG　（＝三井住友海上グループホールディングス㈱）
- 三井住友海上、MSI　（＝三井住友海上火災保険㈱）
- あいおい損保、IOI　（＝あいおい損害保険㈱）
- ニッセイ同和損保、NDI　（＝ニッセイ同和損害保険㈱）
- あいおいニッセイ同和損保、ADI　（＝あいおいニッセイ同和損害保険㈱）
- 三井ダイレクト損保　（＝三井ダイレクト損害保険㈱）
- 三井住友海上きらめき生命　（＝三井住友海上きらめき生命保険㈱）
- あいおい生命　（＝あいおい生命保険㈱）
- 三井住友海上あいおい生命　（＝三井住友海上あいおい生命保険㈱）
- 三井住友海上プライマリー生命
  MSプライマリー生命　（＝三井住友海上プライマリー生命保険㈱）

予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS＆ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、 (4)税制など諸制度の変更、などがあります。

2011年度中間決算の概要（MS&ADホールディングス（連結））

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間		
			前年同期比	増減率
正味収入保険料	13,005	13,052	46	0.4%
経常利益	705	92	△613	△86.9%
中間純利益	400	71	△329	△82.2%

※「もどりッチファンド」（自動車保険「もどりッチ」（満期精算型払戻金特約付契約）の払戻充当保険料）を除いたベース　以下同じ

正味収入保険料の内訳

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間		
			前年同期比	増収率
三井住友海上（単体）	6,234	6,436	201	3.2%
あいおいニッセイ同和損保（単体）	5,583	5,431	△152	△2.7%
三井ダイレクト損保	162	168	6	3.9%
海外保険子会社	1,025	1,017	△7	△0.8%

※連結調整前ベース
※2010年度中間期の「あいおいニッセイ同和損保」は、あいおい損保（単体）とニッセイ同和損保（単体）の単純合算値を記載　以下同じ

中間純利益の内訳

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	
			前年同期比
三井住友海上（単体）	273	53	△220
あいおいニッセイ同和損保（単体）	57	148	91
三井ダイレクト損保	1	3	1
三井住友海上きらめき生命	0	△5	△5
あいおい生命	7	△24	△32
三井住友海上プライマリー生命	45	44	△1
海外保険子会社	7	75	68
その他	1	△0	△2
連結調整等	4	△224	△228

※子会社の利益は、出資持分ベース

＜正味収入保険料＞

■ グループの連結正味収入保険料は1兆3，052億円となり、前年同期比＋46億円、＋0．4%の増収

■ 連結正味収入保険料の内訳

・三井住友海上は＋3．2%の増収、あいおいニッセイ同和損保は△2．7%の減収

・海外保険子会社は、円高による為替の影響が△47億円あり、△0．8%の減収
（現地通貨ベースではアジアで好調に業容を拡大したこともあり、＋3．8%の増収）

＜中間純利益＞

■ 中間純利益は71億円と、前年同期比△329億円の減益

・株式市場の低迷を主因として有価証券評価損539億円（うちパーチェス調整314億円）を計上したこと、および台風等の自然災害による発生保険金（主要損保2社で393億円）を計上したことを主因として、経常利益は前年同期比△613億円の減益

・前期に特別損失として、3社経営統合に伴う一時的な費用235億円を計上していたことから、特別損益は前年同期比＋188億円改善して△22億円

■ 中間純利益の内訳

・三井住友海上は、経常利益が前年同期比△384億円の減益（自然災害による発生保険金235億円）、中間純利益は△220億円の減益

・あいおいニッセイ同和損保は、経常利益が前年同期比△125億円減益（自然災害による発生保険金158億円）、特別損益では統合関連費用△206億円の計上があった前年同期と比べ＋266億円増加、中間純利益は前年同期比＋91億円増益の148億円

・海外保険子会社は、昨年は欧州で大口事故があったことから、中間純利益は前年同期から＋68億円増加して75億円

・連結調整等は、パーチェス調整△169億円、のれん償却費△36億円など

2011年度通期見込（MS&ADホールディングス（連結））

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）		
			前期比	増減率
正味収入保険料	25,414	25,620	206	0.8%
経常利益	210	240	29	14.3%
当期純利益	54	60	5	10.7%

正味収入保険料の内訳

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）		
			前期比	増収率
三井住友海上（単体）	12,305	12,590	284	2.3%
あいおいニッセイ同和損保（単体）	10,973	10,840	△133	△1.2%
三井ダイレクト損保	331	338	7	2.2%
海外保険子会社	1,806	1,846	39	2.2%
その他	ー	6	6	ー

※連結調整前ベース
※2010年度の「あいおいニッセイ同和損保」には、ニッセイ同和損保（単体）の上期業績を単純合算して記載　以下同じ

当期純利益の内訳

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）	
			前期比
三井住友海上（単体）	228	180	△48
あいおいニッセイ同和損保（単体）	△114	120	234
三井ダイレクト損保	2	1	△1
三井住友海上あいおい生命	△71	△90	△18
三井住友海上プライマリー生命	93	68	△25
海外保険子会社	45	30	△15
その他	△0	△1	0
連結調整等	△129	△249	△120

※子会社の利益は、出資持分ベース
※「三井住友海上あいおい生命」は、三井住友海上きらめき生命とあいおい生命の業績を単純合算して記載

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

＜正味収入保険料＞

■ グループの連結正味収入保険料は、前期比＋206億円、＋0．8%の増収となる2兆5，620億円

■ 連結正味収入保険料の内訳

・三井住友海上は、前期比＋284億円増収の1兆2，590億円
・あいおいニッセイ同和損保は、前期比△133億円減収の1兆840億円
・三井ダイレクト損保は、前期比＋7億円増収の338億円
・海外保険子会社は、前期比＋39億円増収の1，846億円

＜当期純利益＞

■ 当期純利益は、台風やタイ洪水等の国内外における自然災害・大口ロスの増加、運用環境の悪化による資産運用損益の減少等により、ほぼ前期並みの60億円

■ 当期純利益の内訳

・三井住友海上は、保険引受利益は改善するものの、資産運用損益が減少すること等により、前期比△48億円の180億円
・あいおいニッセイ同和損保は、保険引受利益の改善、統合関連費用の負担減少により、前期比＋234億円の120億円
・三井ダイレクト損保は、1億円の黒字を見込む。
・三井住友海上あいおい生命は、標準責任準備金一括積立の負担が減少するものの、合併関連費用の増加を見込み、前期比△18億円の△90億円
・三井住友海上プライマリー生命は、100%子会社化により持分割合が増加するものの、運用環境の悪化もあり、前期比△25億円の68億円
・海外保険子会社は、前期比△15億円の30億円
・連結調整等は、負ののれん発生益が減少すること等を主因として前期比△120億円

中期経営計画／グループコア利益の状況

MS&AD INSURANCE GROUP

自然災害による影響はあったが、引き続き利益目標達成に向けて各種施策に取り組む。

■MS＆ADグループの中期経営計画「MS＆ADニューフロンティア2013」（2010年4月公表）で掲げている2013年度の数値目標

（億円）

	2010年度 実績	2011年度 見込※2	2012年度 見通し	2013年度 目標
連結正味収入保険料	25,414	25,620	26,800	27,000
保有契約　年換算保険料※1	2,790	2,960	3,100	3,300

	2010年度 実績	2011年度 見込※2	2012年度 見通し	2013年度 目標
グループコア利益	145	350	1,000	1,500
国内損保事業	65	470	600	1,000
国内生保事業	41	35	120	150
海外事業	18	△170	250	300
金融ｻｰﾋﾞｽ事業/ﾘｽｸ関連事業	19	15	30	50
グループROE	0.8%	2.3%	5.7%	7%

※1　2010年度は三井住友海上きらめき生命とあいおい生命の合算値（団体保険を除く）三井住友海上プライマリー生命は含まない。
※2　「2011年度連結業績予想の修正」（2011年11月18日発表）に基づく修正予想値（概算値）

▶2011年度中間期実績および通期見込について

（億円）

	2011年度中間期
グループコア利益	394
国内損保事業	301
国内生保事業	35
海外事業	50
金融ｻｰﾋﾞｽ事業/ﾘｽｸ関連事業	6

■ 中間期実績は、台風等の発生はあったものの自動車保険収支の改善もあり、394億円となった。

■ なお、通期見込はタイの大規模洪水など国内外の自然災害増加の影響もあり、年初見込730億円を引き下げ、350億円とした。

▶「グループコア利益」「グループROE」の定義

■「グループコア利益」

＝ 連結当期利益
－ 株式キャピタル損益（売却損益等）
－ クレジットデリバティブ評価損益
－ その他特殊要因
＋ 非連結グループ会社持分利益

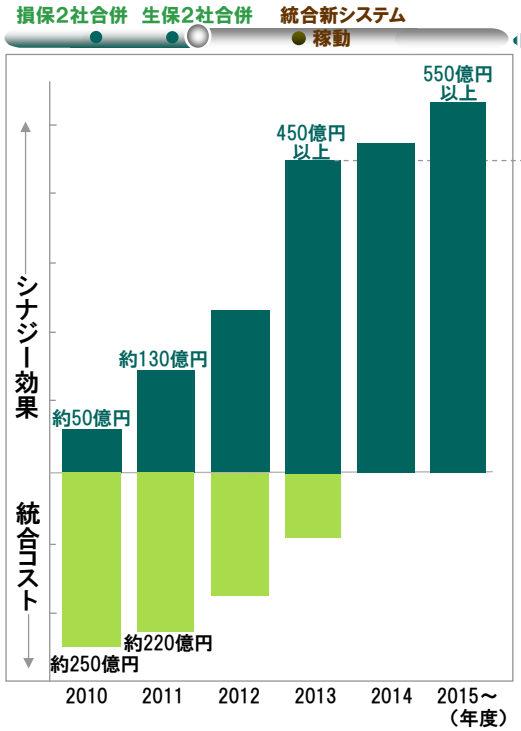
■「グループROE」

＝ グループコア利益 ÷ 期初・期末平均 連結純資産（除く少数株主持分）

統合コストとシナジー効果

「2013年度にはシナジー効果（累計）が統合コスト（累計）を上回る」との見通しに変わりはない。

統合コストとシナジー効果のイメージ（含 生保領域）



■ シナジー効果の見込（2008年度対比）

	■2013年度（単年度ベース、損保＋生保）年450億円以上	■2015年度以降 年550億円以上
コスト削減効果：システム関連	130億円	210億円
コスト削減効果：拠点統合効果と物流・印刷コスト効率化	110億円	110億円
コスト削減効果：外注費・活動費・人件費等の効率化	150億円	150億円
相乗効果：経営資源の重点配分・ネットワークの相互活用によるトップライン効果、ノウハウ共有効果等	70億円	80億円

■統合コストの見込

システム統合等の一時的なコスト（累計）：
損保領域　700億円
生保領域　150億円
を見込む。

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

＜統合コスト＞

■ 2011年度は、統合新システムの開発コスト、生保2社の合併関連費用など 約220億円の統合コストを見込む。

■ 統合コストは、2010年度をピークに、以後漸減する見込み

＜シナジー効果＞

■ 2011年度は、あいおい損保・ニッセイ同和損保 合併（2010年10月）の効果が通年で寄与することや、損保2社の共同取組による効率化推進もあり、約130億円のシナジー効果を見込む。

■ 統合新システムが稼動する2013年度以降、システム開発・運用コストのさらなる削減が見込まれる。

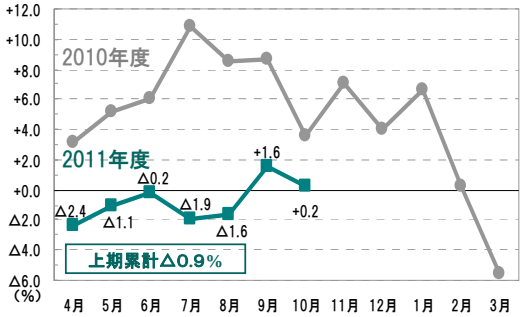
国内損保事業／自動車保険の収支改善状況

MS&AD INSURANCE GROUP

三井住友海上

事故件数の推移（1日あたり、対前年同月増減）

※特約事故を除く主要5担保種目計（除く自然災害）の事故件数を比較。



保険料・保険金・ｱｰﾝﾄﾞｲﾝｶｰﾄﾞ損害率（EI損害率）

＜国内・営業ﾍﾞｰｽ＞	保険料単価	契約台数	保険料
保険料増減要因	+1.6%	+1.8%	+3.5%

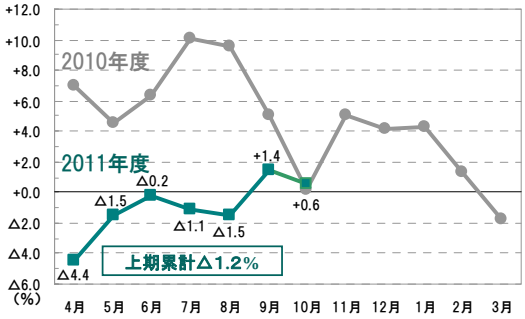
＜国内＞	対人	対物	車両（除く自然災害）
保険金単価増減	△4.0%	+1.2%	+0.5%

＜除く損調費＞	2009.9	2010.9	2011.9
ＥＩ損害率	61.7%	66.7%	63.7%

あいおいニッセイ同和損保

事故件数の推移（1日あたり、対前年同月増減）

※2011年度の比較数値より自然災害の件数を除く。



保険料・保険金・ｱｰﾝﾄﾞｲﾝｶｰﾄﾞ損害率（EI損害率）

＜国内・営業ﾍﾞｰｽ＞	保険料単価	契約台数	保険料
保険料増減要因	+0.7%	△1.4%	△0.8%

＜国内＞	対人	対物	車両（除く自然災害）
保険金単価増減	△2.0%	+0.8%	△1.6%

＜除く損調費＞	2009.9	2010.9	2011.9
ＥＩ損害率	60.2%	65.8%	61.1%

＊保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース（4－9月）の対前年同期比
＊保険金単価の増減は、2010年9月末までの1年間の保険金単価に対する、2011年9月末までの1年間の保険金単価の増減を表示
＊EI損害率は損害調査費を除くベース。期間は各年度の4－9月（あいおいニッセイ同和損保の2010年度以前の数値はあいおい損保とニッセイ同和損保の単純合算値を使用）

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

▶三井住友海上

- 2011年度上期の事故発生件数は、震災による交通量減少等が影響し、前年同期比▲0．9%減少したが、経済活動の正常化とともに、9月以降は震災前の水準に戻っている。
- 営業活動面では、昨年10月の料率改定効果の取込みに引き続き注力した結果、高い継続率を維持。保険料単価は概ね想定どおりに推移（前年同期比＋1．6%上昇）
- これらの要因に加え、車両保険への免責金額設定など収支適正化取組みが進み、EI損害率（除く損調費）は63．7%と前年同期比▲3．0pt低下
  ※自然災害を除くと62．5%（▲4．1pt低下）
- 下期の事故件数は震災前の水準に戻ると見込み、料率引上げ効果と収支適正化対策の強化により、EI損害率（除く損調費）は2011年度通期で62．7%(前期比▲4．0pt低下）を見込む。

▶あいおいニッセイ同和損保

- 2011年度上期の事故受付件数は、震災影響、景気低迷・ガソリン価格の高騰に伴う物流量の低下等を主な要因として、前年同期比▲1．2%減少
- 「契約構造革新取組み」および昨年10月の料率改定により、保険料単価は＋0．7%上昇（ノンフリート継続契約の保険料単価では＋1．3%上昇）
- これらにより、EI損害率（除く損調費）は61．1%と前年同期比▲4．7pt低下
  ※自然災害を除くと　60．4%（▲5．4pt低下）
- 下期も各種収支改善策取組みを進めることにより、2011年度通期ではEI損害率（除く損調費）は62．4%（前期比▲4．6pt低下）を見込む。

国内損保事業／自動車保険の料率・制度改定の動向

MS&AD INSURANCE GROUP

これまでの料率改定と「ノンフリート等級別料率制度」改定（予定）により収支改善に目処

「ノンフリート等級別料率制度」改定の概要と効果

■等級別割増引率を無事故契約者と事故有契約者に細分化し、全ての等級についてリスク実態に合わせて割増引率を見直し

■車両盗難、飛び石、落書き等の従来等級据え置きとしていた事故についてもリスク実態に合わせて1等級ダウンへ変更

■事故有契約者は事故1件につき3年間、車両盗難、飛び石、落書き等事故については1年間低い割引率テーブルを適用

＜18等級で事故があった場合、その後3年間の割増引率の例＞

➢ 制度改定前（等級・割増引率）

等級ダウン

1等級	2等級	3等級	13等級	14等級	15等級	16等級	17等級	18等級	19等級	20等級
+52%	+26%	+10%	-47%	-50%	-52%	→ -55%	→ -57%	→ -59%	-61%	-63%

➢ 制度改定後（等級・割増引率）

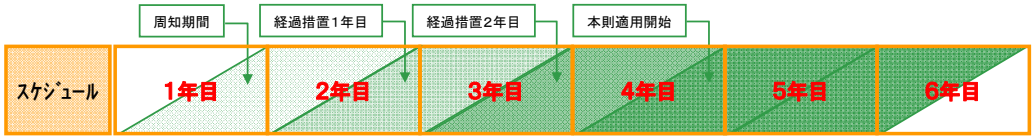
等級ダウン

1等級	2等級	3等級	3等級	14等級	15等級	16等級	17等級	18等級	19等級	20等級	
+64%	+28%	+12%	-49%	-50%	-51%	-52%	-53%	-54%	-55%	-63%	無事故等級
			-29%	-31%	-33%	→ -36%	→ -38%	↗ -40%	-42%	-44%	事故有等級

＜以上、損害保険料率算出機構説明資料より抜粋＞

＜制度改定効果のイメージ＞

■周知期間1年後、契約満期毎に新制度に順次切り替え。2年の段階的改定（経過措置）を経て本格効果は4年目以降実現



■現行制度を要因とした「自然減収構造」（年間約1%）が解消されると予測

■今後の料率改定や収支対策と併せて実施することにより、一層の収支改善をはかる。

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

▶2011年10月の料率改定（三井住友海上）

■平均＋1．9%の料率改定

■運転者年齢条件の改定（「30歳以上」の区分を廃止）および「記名被保険者年齢別料率区分」の導入

■割引制度（長期優良割引・ゴールド免許割引）の見直し

＜過去2回の改定による保険引受損益の改善効果見込＞

MSI	2011年度	2012年度	計
2010年10月改定 2011年10月改定 計	約120億円	約160億円	約290億円

▶2011年10月の料率改定（あいおいニッセイ同和損保）

■平均約＋1%の料率改定

■シニア層の増加を踏まえた収支改善策として、2010年10月に続いて料率改定を実施

＜過去2回の改定による保険引受損益の改善効果見込＞

ADI	2011年度	2012年度	計
2010年10月改定 2011年10月改定 計	約120億円	約190億円	約310億円

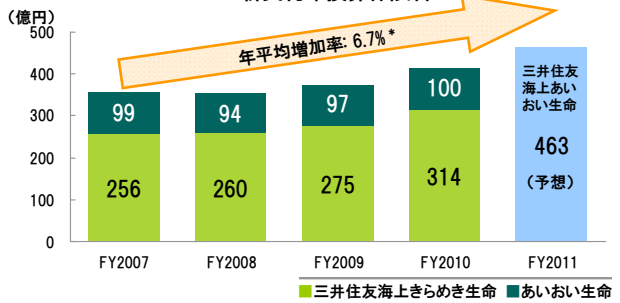
国内生保事業／三井住友海上あいおい生命

MS&AD INSURANCE GROUP

■エンベディッド・バリューにおいて、高い伸びと安定的な成長を同時に実現

高い新契約の伸び率

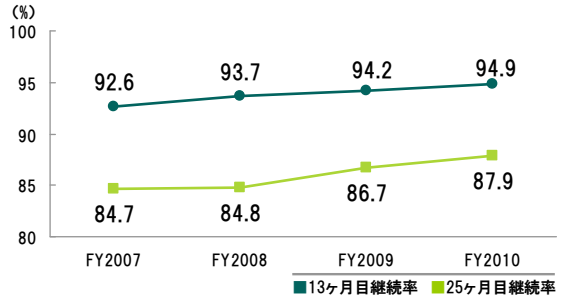
新契約年換算保険料



＊2011年度予想を織込んだ増加率

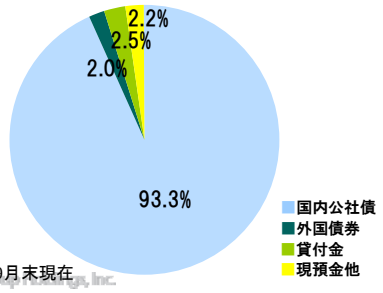
契約継続率の着実な向上

契約継続率（2社合算・件数ベース）



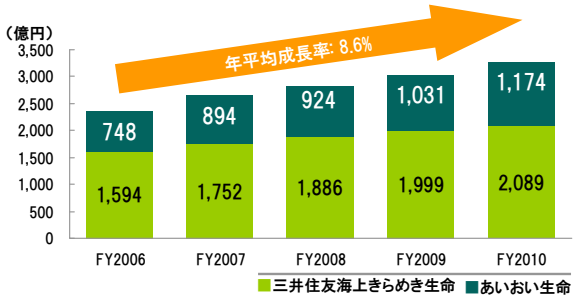
安定性の高い運用ポートフォリオ

運用資産（2社合算）1兆8,093億円＊



＊2011年9月末現在

安定的に成長し続けるEV



MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

▶営業基盤の充実と契約継続重視の徹底

- ■ 営業体制の強化により、新契約の高い伸びを実現
- ■ 代理店に対し教育、評価を通じ契約継続重視を徹底し、契約継続率を着実に改善

➡ 新契約の伸長・保有契約の着実な増大

▶リスク管理を基軸とした資産運用

- ■ ALMに基づき、金利リスクを適正水準に管理
- ■ 株式の保有は、総資産の0.1%未満
  ⇒ 株価リスクは僅少
- ■ 外貨建資産の保有は、総資産の2.0%
  ⇒ 為替リスクは限定的
- ■ 保有債券残高の95% がAA格以上
  ⇒ 信用リスクは限定的
- ■ 流動性リスク、規制リスクも勘案したポートフォリオ管理を実践

（※数値は2011年9月末現在）

➡ 保有契約価値の安定的な拡大を担保

2010年度 新契約高ランキング

◆ 新契約高＊		（億円）	（シェア）
1位	日本生命	78,294	11.2%
2位	第一生命	72,601	10.4%
3位	かんぽ生命	67,287	9.6%
4位	明治安田生命	48,878	7.0%
5位	住友生命	44,128	6.3%
10位相当	三井住友海上あいおい生命（２社合算）	28,431	4.1%

＊新契約高＋転換純増（個人保険＋個人年金保険）

（出所：各社決算資料より、MS&ADホールディングス作成）

安定的なEV成長により グループ企業価値の拡大に貢献

国内生保事業／三井住友海上プライマリー生命

MS&AD INSURANCE GROUP

業界のリーディングカンパニーとして、変化する多様なニーズに応えた商品ラインアップを提供
完全子会社化(2011年4月)もあり、グループ利益への貢献度向上を見込む。

個人年金保険業界のリーディングカンパニー

銀行窓販・個人年金販売ランキング
(2002年10月～2011年3月)

◆ 変額年金 (億円)

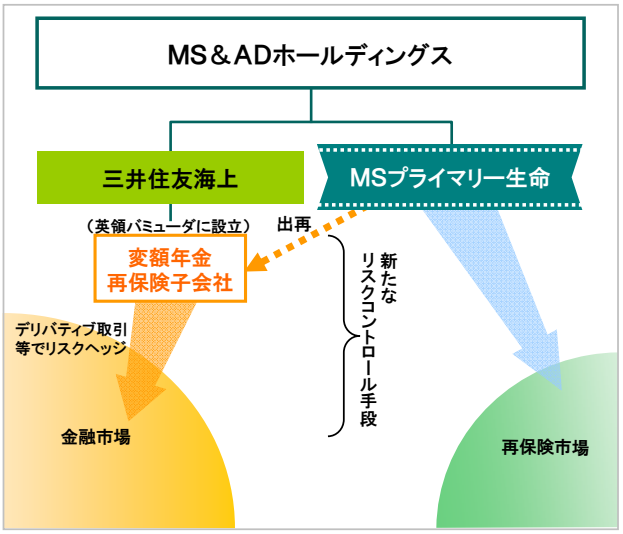
1位	ハートフォード生命	34,263
2位	三井住友海上プライマリー生命	28,005
3位	東京海上日動フィナンシャル生命	26,648

◆ 外貨建て定額年金 (億円)

1位	メットライフアリコ	33,647
2位	三井住友海上プライマリー生命	5,768
3位	AIG エジソン生命	3,553

(出所) 保険毎日新聞

最低保証リスク:新たな外部移転スキームを構築



・再保険子会社(MS Financial Reinsurance Limited)は、関係当局の認可を前提として、英領バミューダに設立予定。開業予定日は2012年1月1日。

▶個人年金保険業界のリーディングカンパニー

- 成長を続ける個人年金保険マーケットにおいて、MSプライマリー生命は過去一貫して業界のリーディングプレーヤーの地位を堅持

▶変額年金保険の販売に伴う最低保証リスク

- MSプライマリー生命では、変額年金保険の販売に伴う最低保証リスクを、再保険市場に外部移転(出再)することにより適切にコントロールしてきた。
- 今般、グループ内の再保険会社(英領バミューダに新設)を通じたリスクの外部移転スキームを構築
- これにより、これまでどおり最低保証リスクを負わずに変額保険の販売を推進することが可能に。

▶変額商品・定額商品を事業の両輪とした商品ポートフォリオ

- リスクコントロール手段の多様化を通じ、変額商品を安定的に提供
- 変額年金保険と定額年金保険を事業の両輪として、従来同様、安定的な商品提供を行う。

▶充実した販売チャネル

- 2011年9月末現在の委託代理店数は171
- うち約3分の2を占める金融機関代理店は、都市銀行6行のうち5行が委託代理店であるほか、地銀・第二地銀105行中75行と契約。また、ゆうちょ銀行・郵便局会社には郵政チャネル向けの専用商品を供給している。
- 全国に拠点展開する広範な販売チャネルの構築は、安定的な商品供給の土台となっている。

＜地銀・第二地銀との契約状況＞

	北海道・東北	関東	甲信越	北陸・東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄	＜計＞
委託行数	12	15	3	11	7	13	14	75
所在行数	17	16	7	18	10	17	20	105

所在行数は、地方銀行協会、第二地方銀行協会の各開示資料から当社にて集計(2011年6月末現在)

海外事業／2011年度中間期業績と2011年度通期の業績見込

MS&AD INSURANCE GROUP

タイ洪水など自然災害の影響もあり、2011年度通期では大幅な減益を見込む。

※「海外事業」: 海外連結子会社に、損保会社の海外支店、海外の非連結子会社の業績を合算したベース

正味収入保険料

（億円）

	2010年度中間期	2011年度中間期		2011年度 通期見込		
		実績	前年同期比		前期比	年初見込比
海外事業 合計 ※1	1,456	1,459	3	2,684	41	△218
アジア	709	785	76	1,531	139	△36
欧州	384	333	△51	588	△64	△108
米州	234	228	△6	422	△7	△52
再保険	144	127	△16	165	△23	△16

当期純利益 ※2

（億円）

	2010年度中間期	2011年度中間期		2011年度 通期見込		
		実績	前年同期比		前期比	年初見込比
海外事業 合計 ※1	26	51	25	△168	△186	△338
アジア	50	56	△5	△12	△98	△162
欧州	△77	△6	71	△123	2	△112
米州	26	19	△7	26	5	△9
再保険	35	2	△33	1	△64	△50

※1 合計欄は本社調整等反映後の数値
※2 「グループコア利益」ベース

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

▶2011年度中間期業績

■ **正味収入保険料**

海外事業全体では前年同期比＋3億円増収の1，459億円 （円高の影響を除くと4．1%の増収）
アジアでは、マレーシア、中国、シンガポールで大幅増収し、前年同期比＋76億円（＋10．7%）と好調を維持したが、欧州では、ソフトマーケットが続く中、厳格な引受基準を維持したこともあり前年同期比△51億円の減収となった。

■ **中間純利益**

海外事業全体では、前年同期比＋25億円の51億円となった。
欧州では、前年の大口事故（68億円）の反動から損失額は大幅に減少したが、再保険子会社では、ニュージーランド地震（38億円）の影響もあり、前年同期比△33億円となった。

▶2011年度の業績見込

■ **正味収入保険料**

海外事業全体では、アジアを中心に前期比＋41億円（＋1．5%）増収の2，684億円を見込む。
アジアは、中国、マレーシアでの大幅増収により、前期比＋139億円（＋9．9%）の増収見込
欧州は、厳格な引受基準の維持等もあり、前期比△64億円の588億円（年初見込比の減収は為替影響等による。）
再保険子会社は、為替の影響もあり前期比△23億円を見込む。

■ **当期純利益**

海外事業全体では、前期比△186億円の減益を見込む。
アジアでは、タイ洪水損害により前期比△98億円。（タイ洪水損害の影響を除くと前期比＋52億円の増益）
欧州では、大幅な保険料減収に加え、火災保険等の大口事故により前期並の損失を見込む。
再保険では、6月発生のニュージーランド地震等自然災害の影響を織り込み前期比△64億円の減益となる見込み

■ **タイの洪水による影響**

発生保険金（正味） 約1，300億円 （異常危険準備金の取崩しを反映した当期純利益への影響は約△150億円）
（可能な限り情報を収集し、一定の前提を置いて算出。排水が完了した工業団地から現地での調査を開始している。）

海外事業／離陸するアジア生保事業

MS&AD INSURANCE GROUP

アジア生保事業は、順調な滑り出し。充実した損保ビジネスの基盤と相俟ってアジアビジネスの両輪を形成

アジアでの生保事業への投資

中国 人口約13億人

2010年4月、信泰人寿保険に
三井住友海上が出資（累計31億円相当）

＋10％ 2011年1～6月の 収入保険料の伸び （前年同期比、現地通貨ﾍﾞｰｽ）	全国性免許を有する 強みを活かし、拠点網 の拡大を図る。

マレーシア 人口約2，800万人

2010年10月、同国6位のホンレオン保険（生保事業）に
三井住友海上が30％出資（254億円相当）

＋29％ 2011年1～6月の 収入保険料の伸び （前年同期比、現地通貨ﾍﾞｰｽ）	販売代理人チャネルに加え、 銀行窓販チャネル拡大のため当社 ｸﾞﾙｰﾌﾟからの技術移転を展開中

インドネシア 人口約2．4億人（世界第4位）

2011年7月、同国2位のシナールマス生命の第三者割当増資を三井住友海上が引受。
出資比率50％（672億円相当）

＋61％ 2011年1～6月の収入保険料の伸び （前年同期比、現地通貨ﾍﾞｰｽ）	商品ポートフォリオの拡充ならびにチャネルの多角化を通じた 中間層の取り込みを図る。

MS＆ADグループは、今後も成長著しいアジア地域を中心に
海外保険事業への積極的な展開を図る。

▶中国、マレーシア、インドネシアにおける生保ビジネスは順調に進捗

（収入保険料の前年同期比は現地通貨ベース）

■ 中国 **信泰人寿保険**
- 収入保険料：2011年1～6月は161億円 （前年同期比＋10％の伸び）

■ マレーシア **ホンレオン保険（生保事業）**
- 収入保険料：2011年1～6月は180億円 （前年同期比で＋29％の伸び）

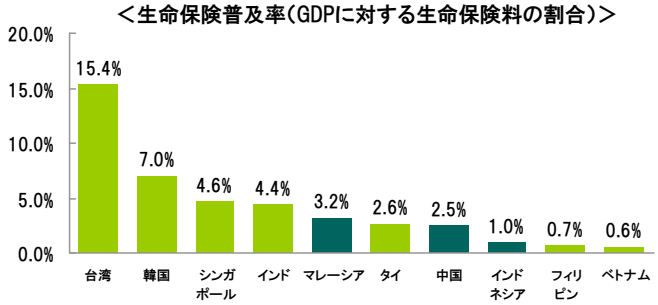
■ インドネシア **シナールマスMSIG生命**
- 収入保険料：2011年1～6月は605億円 （前年同期比で＋61％の伸び）

▶アジアにおける生命保険市場の成長ポテンシャル

当社グループが生保事業に進出した国（中国、マレーシア、インドネシア）は、生命保険の普及率がまだ低く、今後の経済成長とともに大きく成長する余地がある。

① 低い生命保険普及率

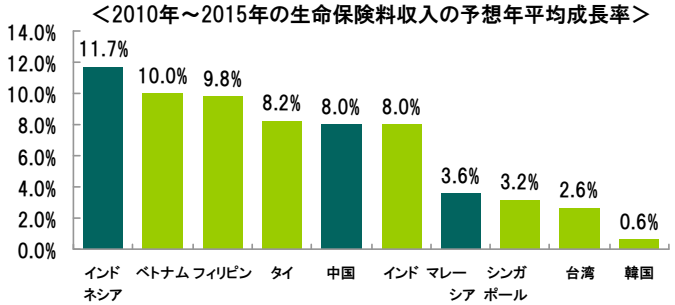
＜生命保険普及率（GDPに対する生命保険料の割合）＞



（出所: Swiss Re Sigma “World Insurance in 2010”よりMS&ADホールディングスにて作成）

② 生命保険市場の成長予測

＜2010年～2015年の生命保険料収入の予想年平均成長率＞



（出所: Business Monitor InternationalよりMS&ADホールディングスにて作成）

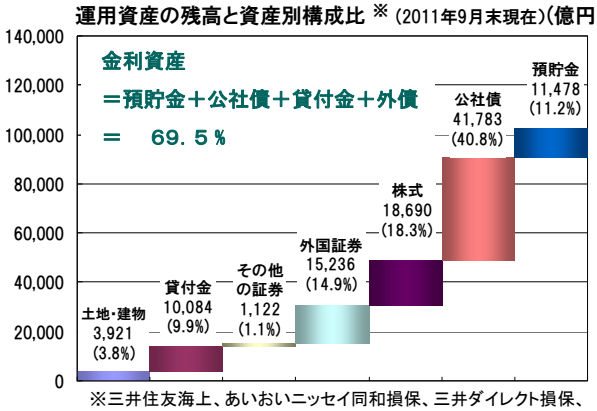
資産運用の状況

MS&AD INSURANCE GROUP

高格付の金利資産を中心とした資産配分とALM管理により、安定した運用ポートフォリオを構築

金利資産を中心とした運用資産配分

運用資産の残高と資産別構成比 ※ (2011年9月末現在)(億円)



※三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保、三井ダイレクト損保、三井住友海上きらめき生命、あいおい生命、三井住友海上ﾌﾟﾗｲﾏﾘｰ生命（一般勘定）の資産を、財務諸表上の区分ごとに 単純合算

安全性を重視した債券ポートフォリオ

債券の格付別残高・構成比 ※ (2011年9月末現在) (億円)

格付	国内の発行体		海外の発行体	
	残高	構成比	残高	構成比
AAA格	27,485	65.8%	4,859	62.7%
AA格	10,166	24.3%	1,501	19.4%
A格	3,774	9.0%	1,175	15.2%
BBB格	291	0.7%	169	2.2%
BB格以下	59	0.1%	42	0.5%
合計	41,780	100.0%	7,745	100.0%

※三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保、三井ダイレクト損保、三井住友海上きらめき生命、あいおい生命、三井住友海上ﾌﾟﾗｲﾏﾘｰ生命（一般勘定）の保有債券を社内格付別に単純合算

金利感応度を管理

	MS＆AD グループ計	国内損保会社計	国内生保会社計
円金利100bp上昇時の資産と負債の差額（サープラス）への影響額	+407 億円	+468 億円	-61 億円

▶資産運用の状況

■ 金利感応度のコントロール

・資産、負債それぞれの金利感応度を、デュレーションではなく金額ベースで計算し、資産と負債の差額（サープラス）に対する影響度をモニタリングして、ポートフォリオを管理（**サープラス型ALM**）

・2011年9月末現在、金利が100bp上昇（平行移動）した場合のグループ全体のサープラスへの影響額は＋407億円

■ 確定利付資産を中心にバランスの取れたポートフォリオ

・グループ全体の運用資産ポートフォリオは、70％近くを債券や貸付を中心とした確定利付資産で運用しており、安定した利配収入を生んでいる。

※ 上記のスライドには、子会社・関連会社への出資金（株式：約640億円、外国証券：約4，530億円）が含まれる。

※ 三井住友海上プライマリー生命（一般勘定）の債券ポートフォリオのうち約5，570億円は、金銭の信託を利用しているため、預貯金に分類される。

■格付の高い債券ポートフォリオ

MSI、ADIの資産運用の状況については、補足資料へ

・確定利付資産の大宗を占める債券ポートフォリオでは、およそ99％がシングルA格以上

・欧州5カ国の国債の保有状況（2011年9月末現在）は以下の通り

（億円）

発行国	アイルランド	イタリア	ギリシャ	スペイン	ポルトガル	計
保有残高	0	110	0	41	0	151

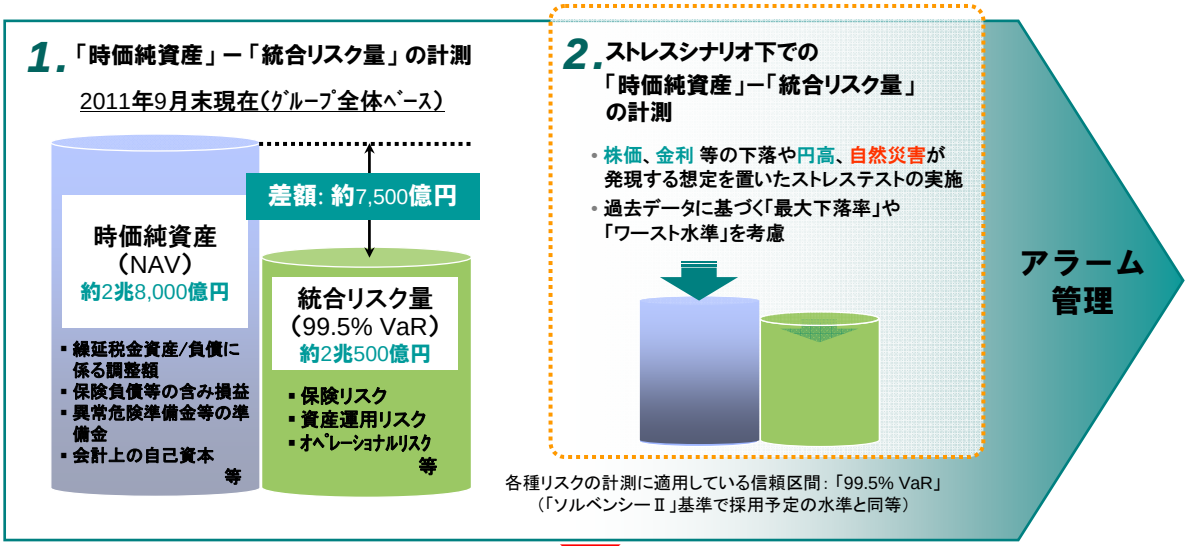
▶政策株式の売却計画

■ 2011～2013年度の3年間で、グループ全体で 3，000億円を売却

「時価純資産」と「統合リスク量」の状況

MS&AD INSURANCE GROUP

- 「統合リスク管理」の枠組みの中で、資本の状況について定期的にモニタリングを実施
- 国内外における自然災害の発生や不安定な金融情勢の下、当社グループの資本は健全な事業活動の遂行に問題のない水準を保っている。



資本政策への反映に当たって考慮している要素

- 資本を構成する各項目の変動性、利用可能性
- 健全性評価に関する格付会社のスタンス
- 内外ソルベンシー規制の中期的動向
- 決算予想や経営計画の遂行状況　等

▶ 当社グループのリスク管理態勢と自然災害の影響について

- 当社グループでは、グループ連結ベースを基本として、資本（時価純資産）とVaRで計測した統合リスク量を比較することにより、資本の充実度（十分性）を確認している。

- また、ストレス・テストを実施し、ポートフォリオの脆弱性を確認するとともに、対応策の策定につなげる態勢を確保している。

- 自然災害リスクについては、モデルによる結果から年間の最大予想損害額を算出し、異常危険準備金残高等も勘案のうえ保有・出再の判断を行っている。
  さらに、リスク対比での資本確保の観点から「アラームポイント（注）」を設定し、99.5%VaRのリスク量とは別にアラームポイント相当のストレス・バッファを確保すべく管理を行う枠組みとしている。

  （注）アラームポイントは、VaR計測では捉え切れないリスク（例えば、金融危機の再来・継続）や自然災害リスクなどのモデルリスク（データ等の制約がある中での確率的なリスク計測の限界等）、自然災害リスクの連続発生等を考慮し、グループ経営として定めたもの。

- なお、自然災害リスクについては、モデルリスクの軽減のため、計量データの精緻化、計量手法の改善などを継続的に進めており、リスク管理の高度化を図っていく。

資本政策と株主還元方針

MS&AD INSURANCE GROUP

※ 2004～2007年度は三井住友海上の実績値。2008年度はMSIGの実績値

（単位：億円）

（グループコア利益の計上年度→）		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度 ※3	2010年度
グループコア利益 ※1	(a)	286	739	649	660	31	338	145
配当総額（年間）	(b)	136	185	198	225	226	329	335
(b) ／ (a)		48%	25%	31%	34%	729%	97%	231%
自己株式取得額（「グループコア利益」計上翌年度の取得額）	(c)	120	115	70	40	100	100	
総還元額 （ (b) ＋ (c) ）	(d)	256	300	268	265	326	429	
株主還元率 （ (d)／(a) ） ※2		90%	41%	41%	40%	1,057%	127%	

※1 2008年度までの「グループコア利益」定義は以下のとおり
（MS＆ADホールディングスにおける現定義と若干の差異あり：現定義は P.3 「グループコア利益」参照）
「グループコア利益」
＝ 連結当期純利益
－ 株式キャピタル損益 －クレジットデリバティブ評価損益
－ 生保子会社連結利益
＋ MSIきらめき生命 標準責任準備金積増前利益
＋ MSIメットライフ生命 US-GAAPベース持分利益
＋ 他

※2 以下の方法で算出 ＜「2008年度」の例＞

$$\frac{\text{2008年度に関する配当（2008年12月、2009年6月）} + \text{2009年度に行った自己株式の買付け}}{\text{2008年度の「グループコア利益」}}$$

※3 2009年度の「グループコア利益」ならびに「配当総額」は、「MSIG」・「あいおい損保」・「ニッセイ同和損保」の合算値

なお、2008年度までの"目処とする還元割合"は「グループコア利益」の40%

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

▶資本政策

■「グループコア利益」をベースに株主還元を行うとともに、成長性の高い領域への資本投入を通じ、成長サイクルの好循環を創出する。

■「『グループコア利益』の拡大」と「的確な資本マネジメント」を通じ、2013年度「グループROE」7%を達成する。

▶株主還元方針

■ 株主還元

「配当」と「自己株式取得」を通じ、「グループコア利益」の50%を目処に株主還元を行う。

■ 配当

安定配当を堅持。収益力を強化し増配基調を目指す。

※2011年度の中間配当は1株当たり27円を実施

■ 自己株式取得

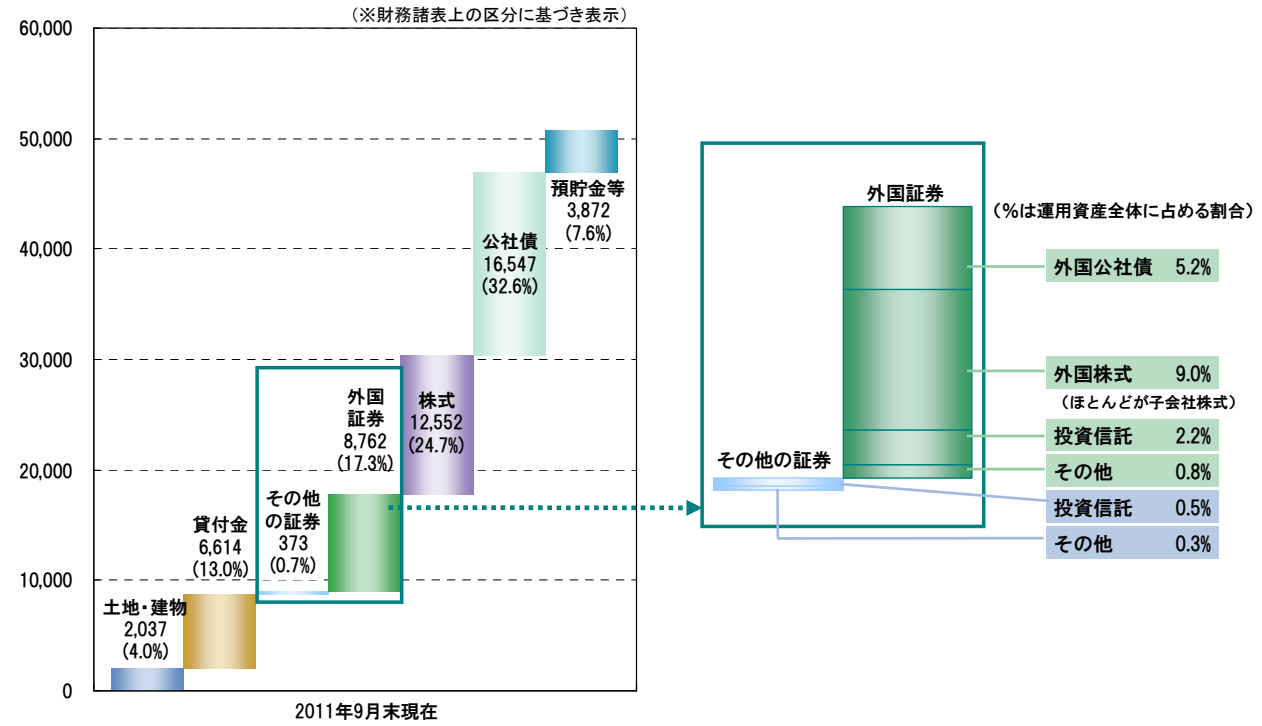
資本と利益の状況を見ながら、機動的かつ継続的に実施

【補足資料】 資産運用の状況（三井住友海上）

MS&AD INSURANCE GROUP

運用資産の残高と資産別構成比

（億円）



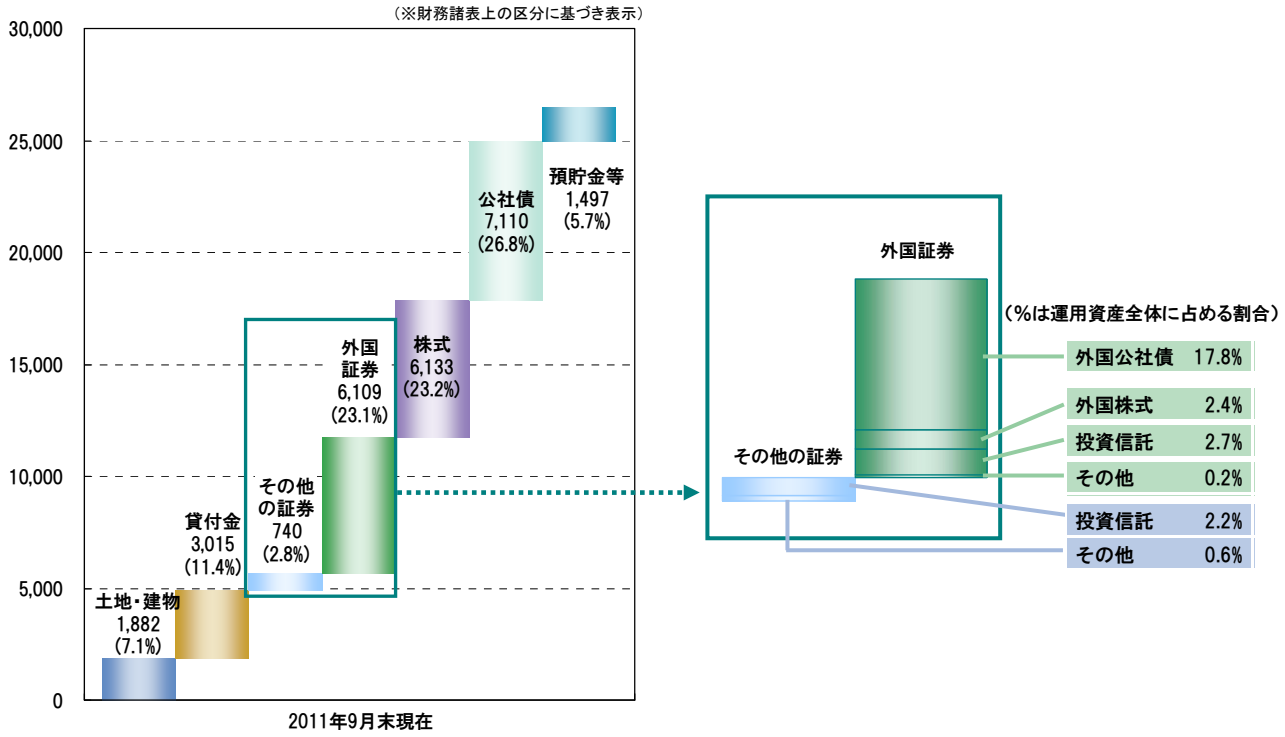
MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

【補足資料】 資産運用の状況（あいおいニッセイ同和損保）

MS&AD INSURANCE GROUP

運用資産の残高と資産別構成比

（億円）



MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&AD
INSURANCE GROUP

【資料編】

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社

2011年度中間決算の概要・2011年度通期見込

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

2011年度中間決算の概要（MS&ADホールディングス（連結））	15ページ
2011年度決算・通期見込（MS&ADホールディングス（連結））	16ページ

2011年度中間決算の概要（MS&ADホールディングス（連結））

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間		
			前年同期比	増減率
正味収入保険料	13,005	13,052	46	0.4%
経常利益	705	92	△613	△86.9%
中間純利益	400	71	△329	△82.2%

※「もどりッチファンド」（自動車保険「もどりッチ」（満期精算型払戻金特約付契約）の払戻充当保険料）を除いたベース　以下同じ

正味収入保険料の内訳

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間		
			前年同期比	増収率
三井住友海上（単体）	6,234	6,436	201	3.2%
あいおいニッセイ同和損保（単体）	5,583	5,431	△152	△2.7%
三井ダイレクト損保	162	168	6	3.9%
海外保険子会社	1,025	1,017	△7	△0.8%

※連結調整前ベース
※2010年度中間期の「あいおいニッセイ同和損保」は、あいおい損保（単体）とニッセイ同和損保（単体）の単純合算値を記載　以下同じ

中間純利益の内訳

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	
			前年同期比
三井住友海上（単体）	273	53	△220
あいおいニッセイ同和損保（単体）	57	148	91
三井ダイレクト損保	1	3	1
三井住友海上きらめき生命	0	△5	△5
あいおい生命	7	△24	△32
三井住友海上プライマリー生命	45	44	△1
海外保険子会社	7	75	68
その他	1	△0	△2
連結調整等	4	△224	△228

※子会社の利益は、出資持分ベース

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

＜正味収入保険料＞

■ グループの連結正味収入保険料は1兆3，052億円となり、前年同期比＋46億円、＋0．4%の増収

■ 連結正味収入保険料の内訳

・三井住友海上は＋3．2%の増収、あいおいニッセイ同和損保は△2．7%の減収

・海外保険子会社は、円高による為替の影響が△47億円あり、△0．8%の減収
（現地通貨ベースではアジアで好調に業容を拡大したこともあり、＋3．8%の増収）

＜中間純利益＞

■ 中間純利益は71億円と、前年同期比△329億円の減益

・株式市場の低迷を主因として有価証券評価損539億円（うちパーチェス調整314億円）を計上したこと、および台風等の自然災害による発生保険金（主要損保2社で393億円）を計上したことを主因として、経常利益は前年同期比△613億円の減益

・前期に特別損失として、3社経営統合に伴う一時的な費用235億円を計上していたことから、特別損益は前年同期比＋188億円改善して△22億円

■ 中間純利益の内訳

・三井住友海上は、経常利益が前年同期比△384億円の減益（自然災害による発生保険金235億円）、中間純利益は△220億円の減益

・あいおいニッセイ同和損保は、経常利益が前年同期比△125億円減益（自然災害による発生保険金158億円）、特別損益では統合関連費用△206億円の計上があった前年同期と比べ＋266億円増加、中間純利益は前年同期比＋91億円増益の148億円

・海外保険子会社は、昨年は欧州で大口事故があったことから、中間純利益は前年同期から＋68億円増加して75億円

・連結調整等は、パーチェス調整△169億円、のれん償却費△36億円など

2011年度決算・通期見込（MS&ADホールディングス（連結））

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）		
			前期比	増減率
正味収入保険料	25,414	25,620	206	0.8%
経常利益	210	240	29	14.3%
当期純利益	54	60	5	10.7%

正味収入保険料の内訳

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）		
			前期比	増収率
三井住友海上（単体）	12,305	12,590	284	2.3%
あいおいニッセイ同和損保（単体）	10,973	10,840	△133	△1.2%
三井ダイレクト損保	331	338	7	2.2%
海外保険子会社	1,806	1,846	39	2.2%
その他	ー	6	6	ー

※連結調整前ベース
※2010年度の「あいおいニッセイ同和損保」には、ニッセイ同和損保（単体）の上期業績を単純合算して記載　以下同じ

当期純利益の内訳

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）	
			前期比
三井住友海上（単体）	228	180	△48
あいおいニッセイ同和損保（単体）	△114	120	234
三井ダイレクト損保	2	1	△1
三井住友海上あいおい生命	△71	△90	△18
三井住友海上プライマリー生命	93	68	△25
海外保険子会社	45	30	△15
その他	△0	△1	0
連結調整等	△129	△249	△120

※子会社の利益は、出資持分ベース
※「三井住友海上あいおい生命」は、三井住友海上きらめき生命とあいおい生命の業績を単純合算して記載

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

＜正味収入保険料＞

■ グループの連結正味収入保険料は、前期比＋206億円、＋0．8%の増収となる2兆5，620億円

■ 連結正味収入保険料の内訳

・三井住友海上は、前期比＋284億円増収の1兆2，590億円
・あいおいニッセイ同和損保は、前期比△133億円減収の1兆840億円
・三井ダイレクト損保は、前期比＋7億円増収の338億円
・海外保険子会社は、前期比＋39億円増収の1，846億円

＜当期純利益＞

■ 当期純利益は、台風やタイ洪水等の国内外における自然災害・大口ロスの増加、運用環境の悪化による資産運用損益の減少等により、ほぼ前期並みの60億円

■ 当期純利益の内訳

・三井住友海上は、保険引受利益は改善するものの、資産運用損益が減少すること等により、前期比△48億円の180億円
・あいおいニッセイ同和損保は、保険引受利益の改善、統合関連費用の負担減少により、前期比＋234億円の120億円
・三井ダイレクト損保は、1億円の黒字を見込む。
・三井住友海上あいおい生命は、標準責任準備金一括積立の負担が減少するものの、合併関連費用の増加を見込み、前期比△18億円の△90億円
・三井住友海上プライマリー生命は、100%子会社化により持分割合が増加するものの、運用環境の悪化もあり、前期比△25億円の68億円
・海外保険子会社は、前期比△15億円の30億円
・連結調整等は、負ののれん発生益が減少すること等を主因として前期比△120億円

2011年度中間決算の概要

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

MS&AD INSURANCE GROUP

三井住友海上（単体）	17ページ
三井住友海上（単体）：種目別保険料・損害率	18ページ
三井住友海上（単体）：社費・事業費率	19ページ
三井住友海上（単体）：資産運用	20ページ
あいおいニッセイ同和損保（単体）	21ページ
あいおいニッセイ同和損保（単体）：種目別保険料・損害率	22ページ
あいおいニッセイ同和損保（単体）：社費・事業費率	23ページ
あいおいニッセイ同和損保（単体）：資産運用	24ページ
三井ダイレクト損保	25ページ
三井住友海上きらめき生命	26ページ
あいおい生命	27ページ
三井住友海上プライマリー生命	28ページ
海外保険子会社	29ページ

三井住友海上（単体）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	前年同期比
正味収入保険料	6,234	6,436	201
正味保険料 増収率	2.5%	3.2%	0.7pt
正味損害率	67.1%	78.6%	11.5pt
正味事業費率	33.1%	32.6%	△0.5pt
コンバインド・レシオ	100.2%	111.2%	11.0pt
インカードロス	3,757	4,749	991
保険引受利益	70	△202	△272
資産運用損益	406	302	△104
経常利益	466	82	△384
特別損益	△100	△39	61
中間純利益	273	53	△220
<除く自賠責保険>			
正味保険料 増収率	2.4%	3.4%	1.0pt
正味損害率	62.3%	75.5%	13.2pt
正味事業費率	34.4%	33.9%	△0.5pt
コンバインド・レシオ	96.7%	109.4%	12.7pt

※「正味損害率」は "リトン・ペイド" ベース。

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

- 正味収入保険料は、＋3．2%の増収
  自動車保険と傷害保険で2010年10月の料率改定の影響で増収したほか、火災保険で企業分野・家計分野ともに増収したことなどから、全種目で＋3．2%の増収
- 正味損害率は、東日本大震災に伴う家計地震保険の保険金が増加した影響により、前年同期比＋11．5ptの上昇
- 正味事業費率は、32．6%となり、前年同期比△0．5ptの改善
- コンバインド・レシオは111．2%となり、前年同期比＋11．0ptの上昇
- インカードロスは、前年同期比＋991億円の増加
  （家計地震保険・自賠責保険を除いたベースでは、前年同期比＋295億円の増加）
  国内自然災害（台風15号・12号等）、海外自然災害（ニュージーランド地震等）、個別の大口事故が例年よりも多く発生したことによる。
- 保険引受利益は△202億円
  インカードロスが増加したことを主因に、前年同期比△272億円の減益
- 資産運用損益は302億円。利配収入の減少を主因に、前年同期比△104億円の減益
- 経常利益は82億円となり、前年同期比△384億円の減益
- 特別損益は、不動産の減損25億円や価格変動準備金の積立負担13億円等を計上したことにより、△39億円
- 以上の結果、中間純利益は53億円となり、前年同期比△220億円の減益

三井住友海上(単体): 種目別保険料・損害率

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

(億円)

	2010年度 中間	2011年度中間	増収率
火 災	895	946	5.7%
海 上	278	279	0.1%
傷 害	695	725	4.3%
自 動 車	2,759	2,839	2.9%
自 賠 責	694	705	1.6%
そ の 他	911	939	3.1%
合 計	6,234	6,436	3.2%
除く自賠責	5,540	5,730	3.4%

正味損害率

	2010年度 中間	2011年度中間	前年同期比
火 災	40.5%	132.7%	92.2pt
海 上	50.2%	54.8%	4.6pt
傷 害	59.3%	57.5%	△1.8pt
自 動 車	73.7%	72.0%	△1.7pt
自 賠 責	105.1%	103.2%	△1.9pt
そ の 他	55.1%	48.6%	△6.5pt
合 計	67.1%	78.6%	11.5pt
除く自賠責	62.3%	75.5%	13.2pt

インカードロス

(億円)

	2010年度 中間	2011年度中間	前年同期比
インカードロス(除く損調費)	3,757	4,749	991
自然災害	13	880	866
自然災害以外	3,743	3,868	125

※インカードロス=正味支払保険金+普通備金積増+IBNR備金積増
2011年度中間の自然災害には、東日本大震災に伴う当年度のインカードロス 645億円(うち家計地震 711億円)を含む。

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

＜正味収入保険料＞

・火災保険は、企業分野で長期契約の更改が多かったことや家計分野が好調だったことなどにより、前年同期比+5.7%の増収

・傷害保険は、2010年10月の料率改定の影響等により、前年同期比+4.3%の増収

・自動車保険は、2010年10月の料率改定の影響と高い継続率により、前年同期比+2.9%の増収

＜正味損害率＞

・東日本大震災に係る保険金が増加したことを主因に、火災保険は前年同期比+92.2pt、海上保険は前年同期比+4.6ptの上昇

・自動車保険は、東日本大震災や自然災害に係る保険金が増加したものの、保険料が増収した影響で、前年同期比△1.7ptの改善

＜当期発生の自然災害＞

(億円)

	2010年度中間			2011年度中間		
	正味保険金	支払備金	合計	正味保険金	支払備金	合計
火災	4	4	9	24	162	187
海上	0	0	0	0	3	3
自動車	2	0	3	14	18	33
その他	0	1	1	1	9	10
合計	7	6	13	40	194	235

三井住友海上(単体): 社費・事業費率

MS&AD INSURANCE GROUP

社費

(億円)

	2010年度 中間	2011年度中間	
			前年同期比
保険引受社費	981	973	△7
損害調査費	365	369	3
その他	51	47	△4
社費合計	1,399	1,391	△8
人件費	799	797	△2
物件費	531	528	△2
税金・拠出金等	68	65	△3

事業費率

	2010年度 中間	2011年度中間	
			前年同期比
正味手数料率	17.4%	17.5%	0.1pt
正味社費率	15.7%	15.1%	△0.6pt
正味事業費率	33.1%	32.6%	△0.5pt
同 (除く自賠責)	34.4%	33.9%	△0.5pt

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

■ 社費合計は、前年同期を△8億円下回る1，391億円

■ 人件費・物件費ともに、前年同期比△2億円の減少

■ 正味事業費率は32．6%。 前年同期比△0．5ptの低下(内訳は以下のとおり)
- 正味手数料率　17．5%(前年同期比＋0．1pt)
- 正味社費率　15．1%(前年同期比△0．6pt)

三井住友海上(単体): 資産運用

MS&AD INSURANCE GROUP

資産運用損益の概要

(億円)

	2010年度 中間	2011年度中間	前年同期比
グロス利配収入	612	540	△72
積立保険料等運用益振替	△ 259	△ 240	18
ネット一般利配収入	353	299	△54
有価証券売却損益	147	179	31
有価証券評価損	△76	△81	△4
有価証券償還損益	1	0	△1
金融派生商品損益	54	6	△48
その他	△74	△101	△26
資産運用損益	406	302	△104

グロス利配収入の主な内訳

(億円)

	2010年度 中間	2011年度中間	前年同期比
公社債	147	142	△4
株式	157	169	11
外国証券	166	112	△54
その他有価証券	17	1	△15
貸付金	66	60	△5
土地・建物	35	30	△4
その他	22	23	1
合計	612	540	△72

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

- グロス利配収入は、外国証券の利配収入が減少したことなどにより、前年同期比△72億円の減少
  ネット一般利配収入は、前年同期比△54億円の減少
- 有価証券売却損益は、前年同期比＋31億円の増加
- 有価証券評価損は、前年同期比＋4億円増加(内訳は以下のとおり)

(億円)

	2010年度 中間	2011年度中間	前年同期比
公社債	―	10	10
株式	68	55	△12
外国証券	8	15	7
その他	―	―	―
合計	76	81	4

- 金融派生商品損益は、クレジット・デリバティブの時価が欧州の金融不安を主因に下落した影響等により、前年同期比△48億円の減少
- 以上の結果、資産運用損益は302億円となり、前年同期比△104億円の減少

＜参考:運用資産の内訳＞

(億円)

	2010年度	2011年度中間	増減
預貯金等	3,528	3,872	344
有価証券	41,003	38,236	△2,767
公社債	16,975	16,547	△427
株式	15,097	12,552	△2,544
外国証券	8,528	8,762	233
その他有価証券	402	373	△29
貸付金	6,872	6,614	△258
土地・建物	2,093	2,037	△56
合計	53,498	50,760	△2,738

あいおいニッセイ同和損保（単体）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	
			前年同期比
正味収入保険料	5,583	5,431	△152
正味保険料 増収率	1.0%	△2.7%	△3.7pt
正味損害率	66.6%	81.4%	14.8pt
正味事業費率	35.2%	35.1%	△0.1pt
コンバインド・レシオ	101.8%	116.5%	14.7pt
インカードロス	3,436	3,991	554
保険引受利益	81	199	118
資産運用損益	248	△5	△253
経常利益	306	181	△125
特別損益	△231	34	266
中間純利益	57	148	91
<除く自賠責保険>			
正味保険料 増収率	0.7%	△2.9%	△3.6pt
正味損害率	62.3%	79.2%	16.9pt
正味事業費率	35.9%	36.1%	0.2pt
コンバインド・レシオ	98.2%	115.3%	17.1pt

※「正味損害率」は "リトン・ペイド" ベース

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

- 正味収入保険料は、火災保険や自動車保険での減収を主因に、全種目合計では前年同期比△152億円(△2．7%)の減収
- 正味損害率は、東日本大震災による支払いなどで正味支払保険金が増加したことにより、前年同期比＋14．8ptの上昇
- 正味事業費率は、諸手数料及び集金費、保険引受に係る営業費及び一般管理費がともに減少 し、前年同期比△0．1ptの低下
- コンバインド・レシオは116．5%となり、前年同期比＋14．7pt上昇
- 保険引受利益は199億円。台風12号・15号など自然災害によるインカードロスが増加したものの、事故受付件数の減少などによる自動車保険インカードロスの減少や、事業費の減少などにより、前年同期比＋118億円の増益
- 資産運用損益は△5億円。運用環境の悪化に伴い、有価証券売却損益の減少に加え、有価証券評価損が増加したため、前年同期比△253億円の減少
- 以上の結果、経常利益は181億円となり、前年同期比△125億円の減益
- 特別損益は、価格変動準備金が戻し入れとなったことから34億円となり、経営統合関連費用206億円の計上があった前年同期に比べ＋266億円の増加
- 中間純利益は148億円と、前年同期比＋91億円の増益

あいおいニッセイ同和損保（単体）：種目別保険料・損害率

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	
			増収率
火 災	695	616	△11.3%
海 上	41	44	7.4%
傷 害	374	373	△0.3%
自 動 車	3,215	3,166	△1.5%
自 賠 責	716	706	△1.4%
そ の 他	539	523	△3.0%
合 計	5,583	5,431	△2.7%
除く自賠責	4,866	4,724	△2.9%

正味損害率

	2010年度 中間	2011年度中間	
			前年同期比
火 災	40.0%	169.8%	129.8pt
海 上	66.6%	60.4%	△6.2pt
傷 害	53.6%	51.5%	△2.1pt
自 動 車	68.2%	67.2%	△1.0pt
自 賠 責	95.7%	96.2%	0.5pt
そ の 他	61.5%	66.1%	4.6pt
合 計	66.6%	81.4%	14.8pt
除く自賠責	62.3%	79.2%	16.9pt

インカードロス

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	
			前年同期比
インカードロス（除く損調費）	3,436	3,991	554
自然災害	5	721	716
自然災害以外	3,431	3,270	△161

※インカードロス＝正味支払保険金＋普通備金積増＋IBNR備金積増
2011年度中間の自然損害には、東日本大震災に伴う当年度のインカードロス 562億円（うち家計地震 566億円）を含む。

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

＜正味収入保険料＞

・火災保険は、リスク抑制目的で出再を増加させたため、前年同期比△１１．３%の減収

・自動車保険は、元受・受再ともに減収し、前年同期比△１．５%の減収

＜正味損害率＞

・東日本大震災による支払いなどで正味支払保険金が増加したため、全種目合計では８１．４%と、前年同期比＋１４．８ptの上昇

・除く自賠責ベースの正味損害率は７９．２%　前年同期比＋１６．９pt

＜当期発生の自然災害＞

（億円）

	2010年度中間			2011年度中間		
	正味保険金	支払備金	合計	正味保険金	支払備金	合計
火災	1	0	2	13	119	133
自動車	1	0	1	7	13	21
その他	0	1	1	0	3	3
合計	2	2	5	21	137	158

あいおいニッセイ同和損保（単体）：社費・事業費率

MS&AD INSURANCE GROUP

社費

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	
			前年同期比
保険引受社費	967	942	△24
損害調査費	278	255	△22
その他	55	41	△14
社費合計	1,301	1,239	△61
人件費	661	631	△29
物件費	576	549	△26
税金・拠出金等	64	59	△4

事業費率

	2010年度 中間	2011年度中間	
			前年同期比
正味手数料率	17.9%	17.8%	△0.1pt
正味社費率	17.3%	17.4%	0.1pt
正味事業費率	35.2%	35.1%	△0.1pt
同　（除く自賠責）	35.9%	36.1%	0.2pt

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

■ 人件費・物件費が合併効果などで減少したことより、社費合計は1,239億円と、前年同期比△61億円の減少

■ 正味事業費率は35．1％　前年同期比△0．1ptの低下

・正味手数料率　17．8％（前年同期比△0．1pt）
・正味社費率　17．4％（前年同期比＋0．1pt）

■ 除く自賠責ベースの正味事業費率は36．1％　前年同期比＋0．2ptの上昇

・正味手数料率　19．2％（前年同期比＋0.0pt）
・正味社費率　16．9％（前年同期比＋0.2pt）

あいおいニッセイ同和損保（単体）：資産運用

MS&AD INSURANCE GROUP

資産運用損益の概要

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	前年同期比
グロス利配収入	331	298	△32
積立保険料等運用益振替	△122	△111	10
ネット一般利配収入	208	186	△21
有価証券売却損益	194	28	△166
有価証券評価損	△98	△141	△42
有価証券償還損益	△3	△3	△0
金融派生商品損益	3	△8	△12
その他運用損益	△55	△66	△10
資産運用損益	248	△5	△253

グロス利配収入の主な内訳

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	前年同期比
公社債	52	51	△1
株式	72	78	6
外国証券	114	95	△18
その他有価証券	23	11	△12
貸付金	32	28	△4
土地・建物	29	26	△2
その他	5	5	0
合計	331	298	△32

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

- グロス利配収入は、外国証券からの利配減少を主因に、前年同期比△32億円減少
- 積立保険料等運用益振替は前年同期比△10億円減少したため、ネット一般利配収入は、前年同期比△21億円減少し、186億円
- 有価証券売却損益は、前年同期比△166億円の減少
- 有価証券評価損は、前年同期比＋42億円増加し、141億円

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	前年同期比
公社債	0	－	△0
株式	98	126	27
外国証券	－	15	15
その他	0	－	△0
合計	98	141	42

- 以上の結果、資産運用損益は△5億円と、前年同期比△253億円の減少

＜参考：運用資産の内訳＞

（億円）

	2010年度	2011年度中間	増減
預貯金等	2,515	1,497	△1,017
有価証券	20,332	20,094	△238
公社債	6,509	7,110	600
株式	6,626	6,133	△492
外国証券	6,352	6,109	△242
その他有価証券	845	740	△104
貸付金	3,251	3,015	△236
土地・建物	1,894	1,882	△12
合計	27,994	26,489	△1,504

三井ダイレクト損保

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	
			前年同期比
正味収入保険料	162	168	6
正味保険料 増収率	3.0%	3.9%	0.9pt
正味損害率	77.4%	74.1%	△3.3pt
正味事業費率	22.7%	21.9%	△0.8pt
コンバインド・レシオ	100.1%	96.0%	△4.1pt
インカードロス	120	121	0
保険引受利益	1	3	2
資産運用損益	1	0	△0
経常利益	2	4	2
特別損益	△0	△0	△0
中間純利益（当社持分）	1	3	1

※「正味損害率」は "リトン・ペイド" ベース

インカードロス

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	
			前年同期比
インカードロス（除く損調費）	120	121	0
自然災害	0	1	1
自然災害以外	120	119	△0

※インカードロス＝正味支払保険金＋普通備金積増＋IBNR備金積増

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

- 正味収入保険料は、７月料率改定効果も含め、前年同期比＋３．９%の増収
- 正味損害率は、震災直後の事故率低下もあり74．１%で、前年同期比△３．３ptの低下
- 正味事業費率は、21．９%となり、前年同期比△０．８ptの低下
- コンバインド・レシオは、96．０%となり、前年同期比△４．１ptの低下
- 保険引受利益は、前年同期比＋２億円増加し、３億円
- 中間純利益（当社持分）は、３億円となり、前年同期比＋１億円の増加

三井住友海上きらめき生命

MS&AD INSURANCE GROUP

三井住友海上きらめき生命

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	前年同期比（又は期首比）
新契約高※	8,316	9,823	18.1%
保有契約高※	97,463	106,002	（期首比） 4.6%
新契約年換算保険料※	151	164	8.1%
保有契約年換算保険料※	1,974	2,080	（期首比） 2.8%
中間純利益	0	△5	△5

※ 個人保険・個人年金保険の合計

- 新契約高は、前年同期比＋18．1%と大きく増加
  保有契約高も、期首比＋4．6%増と堅調な伸び
- 新契約年換算保険料は、前年同期比＋8．1%の増加
  保有契約年換算保険料は、期首比＋2．8%増加
- 中間純利益は△5億円と、前年同期比△5億円の減益
  （ なお、合併費用の影響を除いたベースでは 8億円 ）

あいおい生命

MS&AD INSURANCE GROUP

あいおい生命

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	前年同期比（又は期首比）
新契約高※	4,931	6,429	30.4%
保有契約高※	60,578	66,461	（期首比） 5.6%
新契約年換算保険料※	48	73	52.4%
保有契約年換算保険料※	749	804	（期首比） 4.9%
中間純利益	7	△24	△32

※個人保険・個人年金保険の合計

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

- 新契約高は、前年同期比＋30．4%と大きく増加
  保有契約高も、期首比＋5．6%増と着実に増加

- 新契約年換算保険料は、前年同期比＋52．4%と大きく増加
  保有契約年換算保険料も、期首比＋4．9%と着実に増加

- 中間純利益は△24億円と、前年同期比△32億円の減益
  （ なお、合併費用の影響を除いたベースでは△11億円 ）

三井住友海上プライマリー生命

MS&AD INSURANCE GROUP

三井住友海上プライマリー生命

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	前年同期比（又は期首比）
新契約高	1,294	1,178	△9.0%
保有契約高	29,767	28,447	（期首比） △7.7%
保険料	1,252	1,145	△8.5%
中間純利益（当社持分）	45	44	△ 1

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

- 新契約高は、契約件数の減少により、前年同期比△９．０%の減少
- 保有契約高は、運用環境の悪化や円高の影響で期首比△７．７%の減少
- 保険料は、変額年金マーケットの低迷により、前年同期比△８．５%の減少
- 中間純利益は運用環境の低迷に伴う資産運用損益の悪化などにより前年同期比△46億円減益の44億円。今期は完全子会社となったため（前期は持分法適用会社（持分割合50%））連結ベースでは△1億円の減益

海外保険子会社

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間		
			前年同期比	増収率
子会社 合計	1,025	1,017	△7	△0.8%
アジア	400	469	68	17.2%
欧州	321	267	△54	△16.9%
米州	158	153	△5	△3.5%
再保険	144	127	△16	△11.7%

中間純利益

（億円）

	2010年度 中間	2011年度中間	
			前年同期比
子会社 合計	7	75	68
アジア	42	48	6
欧州	△82	17	100
米州	11	7	△4
再保険	35	1	△33

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

■ 海外保険子会社の正味収入保険料は、円高による影響△47億円を受けたことにより、全体では△0．8%の減収となったが、現地通貨ベースでは＋3．8%の増収

・地域別では、アジアで順調に業容拡大した結果、＋17．2%の増収（現地通貨ベースでは＋21．0%の増収）

・欧州では市場環境が厳しいことに加え、収支改善に向けた引受抑制をしていることもあり△16．9%の減収（現地通貨ベースでは△13．2%の減収）

■ 海外保険子会社の中間純利益は75億円と、前年同期比＋68億円の増益

・アジアは、有価証券売却損益など資産運用損益が減少したものの、保険引受面は好調を維持 し、＋6億円の増益

・欧州は、昨年は大口事故の影響があったが、これがなくなったことから前年同期比＋100億円の増益

・再保険は、ニュージーランド地震による発生保険金39億円などにより、前年同期比△33億円の減益となったが、1億円の中間純利益を確保

2011年度決算 通期見込

MS&ADインシュアランスグループ ホールディングス株式会社

MS&AD INSURANCE GROUP

三井住友海上（単体）	30ページ
三井住友海上（単体）：種目別保険料・損害率	31ページ
三井住友海上（単体）：社費・事業費率	32ページ
三井住友海上（単体）：資産運用	33ページ
あいおいニッセイ同和損保（単体）	34ページ
あいおいニッセイ同和損保（単体）：種目別保険料・損害率	35ページ
あいおいニッセイ同和損保（単体）：社費・事業費率	36ページ
あいおいニッセイ同和損保（単体）：資産運用	37ページ
三井ダイレクト損保	38ページ
三井住友海上あいおい生命	39ページ
三井住友海上プライマリー生命	40ページ
海外保険子会社	41ページ

三井住友海上（単体）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）	
			前期比
正味収入保険料	12,305	12,590	284
正味保険料 増収率	2.2%	2.3%	0.1pt
正味損害率	68.4%	85.7%	17.3pt
正味事業費率	33.9%	33.7%	△0.2pt
コンバインド・レシオ	102.3%	119.4%	17.1pt
インカードロス	8,066	9,629	1,562
保険引受利益	△503	△170	334
資産運用損益	839	481	△359
経常利益	317	280	△37
特別損益	△55	△61	△6
当期純利益	228	180	△48
<除く自賠責保険>			
正味保険料 増収率	2.4%	1.8%	△0.6pt
正味損害率	63.5%	83.7%	20.2pt
正味事業費率	35.2%	35.4%	0.2pt
コンバインド・レシオ	98.7%	119.1%	20.4pt

※「正味損害率」は "リトン・ペイド" ベース。

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

- 正味収入保険料は、前期比＋284億円、＋2．3%の増収の1兆2，590億円
- 正味損害率は、東日本大震災、タイ洪水に伴う支払保険金増加により、前期比＋17．3pt上昇の85．7%
- 正味事業費率は、前期比△0．2pt低下の33．7%
- コンバインド・レシオは、前期比＋17．1pt上昇の119．4%
- 保険引受利益は、前期比＋334億円となる△170億円
- 資産運用損益は、前期比△359億円の481億円
- 経常利益は、保険引受利益は改善するものの、資産運用損益が減少することにより、前期比△37億円の280億円
- 特別損益は、前期並みの△61億円
- 当期純利益は、前期比△48億円の180億円

三井住友海上(単体): 種目別保険料・損害率

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

(億円)

	2010年度	2011年度(見込)	
			増収率
火 災	1,803	1,840	2.0%
海 上	543	531	△2.3%
傷 害	1,331	1,378	3.5%
自 動 車	5,554	5,672	2.1%
自 賠 責	1,353	1,443	6.6%
そ の 他	1,719	1,726	0.4%
合 計	12,305	12,590	2.3%
除く自賠責	10,952	11,147	1.8%

正味損害率

	2010年度	2011年度(見込)	
			前期比
火 災	40.2%	165.2%	125.0pt
海 上	50.7%	60.8%	10.1pt
傷 害	61.9%	60.7%	△1.2pt
自 動 車	74.8%	73.6%	△1.2pt
自 賠 責	107.7%	100.8%	△6.9pt
そ の 他	56.9%	55.4%	△1.5pt
合 計	68.4%	85.7%	17.3pt
除く自賠責・家計地震	63.7%	76.6%	12.9pt

インカードロス

(億円)

	2010年度	2011年度(見込)	
			前期比
インカードロス(除く損調費)	8,066	9,629	1,562
国内自然災害/タイ洪水	556	2,096	1,540
自然災害以外	7,510	7,533	22

※インカードロス=正味支払保険金+普通備金積増+IBNR備金積増
※2010年度の国内自然災害には、東日本大震災に伴うインカードロス 533億円(うち家計地震 101億円)を含む。
※2011年度の国内自然災害には、東日本大震災に伴うインカードロス 646億円(うち家計地震 711億円)、タイ洪水のインカードロス 1,200億円を含む。

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

- 正味収入保険料は、自動車、自賠責の料率改定効果や地震保険ニーズの高まりにより、海上以外の全種目で増収を見込む。
- 正味損害率は、東日本大震災、タイ洪水の支払保険金増加により、前期比+17.3ptの85.7%
- 除く自然災害ベースの正味損害率は以下の通り

火 災	:	43.9%	(前期比+ 4.4pt)
海 上	:	51.7%	(前期比+ 1.0pt)
傷 害	:	60.4%	(前期比△ 1.5pt)
自動車	:	72.6%	(前期比△ 2.1pt)
自賠責	:	100.8%	(前期比△ 6.9pt)
その他	:	53.5%	(前期比△ 3.4pt)
合計	:	66.8%	(前期比△ 1.4pt)

- 当年度発生の国内自然災害は250億円(除くマリン種目)を織り込む。
  火災:205億円、自動車:35億円、その他10億円
- タイ洪水のインカードロス1,200億円を織り込む。
- 自然災害以外のインカードロスは、ほぼ前期並みの水準

三井住友海上(単体): 社費・事業費率

MS&AD INSURANCE GROUP

社費

(億円)

	2010年度	2011年度(見込)	
			前期比
保険引受社費	2,025	2,058	32
損害調査費	755	763	7
その他	103	101	△3
社費合計	2,884	2,922	37
人件費	1,593	1,596	3
物件費	1,156	1,193	36
税金・拠出金等	135	133	△3

事業費率

	2010年度	2011年度(見込)	
			前期比
正味手数料率	17.5%	17.4%	△0.1pt
正味社費率	16.5%	16.3%	△0.2pt
正味事業費率	33.9%	33.7%	△0.2pt
同 (除く自賠責)	35.2%	35.4%	0.2pt

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

■ 社費合計は、前期を＋37億円上回る2，922億円を見込む。

■ 正味事業費率は、前期比△0．2pt改善の33．7%
- 正味手数料率　17．4%(前期比△0．1pt)
- 正味社費率　16．3%(前期比△0．2pt)

■ 除く自賠責ベースの正味事業費率は、前期比＋0．2pt上昇の35．4%
- 正味手数料率　18．8%(前期比＋0．1pt)
- 正味社費率　16．7%(前期比＋0．2pt)

三井住友海上(単体): 資産運用

MS&AD INSURANCE GROUP

資産運用損益の概要

(億円)

	2010年度	2011年度(見込)	
			前期比
グロス利配収入	1,118	981	△138
積立保険料等運用益振替	△ 511	△ 471	41
ネット一般利配収入	606	510	△97
有価証券売却損益	383	173	△211
有価証券評価損	△75	△66	10
有価証券償還損益	△6	△0	6
金融派生商品損益	87	19	△69
その他	△155	△154	2
資産運用損益	839	481	△359

グロス利配収入の主な内訳

(億円)

	2010年度	2011年度(見込)	
			前期比
公社債	291	284	△7
株式	287	296	9
外国証券	258	167	△92
その他有価証券	37	18	△19
貸付金	129	114	△15
不動産	67	56	△11
その他	48	45	△4
合計	1,118	981	△138

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

- グロス利配収入は、外国証券の利配収入減少などにより、前期比△138億円の981億円
- ネット一般利配収入は、前期比△97億円の510億円
- 有価証券売却損益は、前期比△211億円の173億円
- 有価証券評価損は、前期比△10億円の66億円
- 金融派生商品損益は、クレジット・デリバティブの時価評価損益の減少等により、前期比△69億円の19億円

あいおいニッセイ同和損保（単体）

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）	
			前期比
正味収入保険料	10,973	10,840	△133
正味保険料 増収率	△0.8%	△1.2%	△0.4pt
正味損害率	68.2%	78.5%	10.3pt
正味事業費率	35.6%	35.5%	△0.1pt
コンバインド・レシオ	103.8%	114.0%	10.2pt
インカードロス	7,354	7,531	176
保険引受利益	△333	0	333
資産運用損益	514	120	△394
経常利益	160	110	△50
特別損益	△350	60	410
当期純利益	△114	120	234
<除く自賠責保険>			
正味保険料 増収率	△1.0%	△2.1%	△1.1pt
正味損害率	63.8%	76.2%	12.4pt
正味事業費率	36.5%	37.3%	0.8pt
コンバインド・レシオ	100.3%	113.5%	13.2pt

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

- 正味収入保険料は、前期比△133億円、△1．2%減収の1兆840億円
- 正味損害率は、前期比＋10．3pt上昇の78．5%、自賠責を除くベースでは76．2%
- 正味事業費率は、前期比△0．1pt低下し35．5%、自賠責を除くベースでは37．3%
- コンバインド・レシオは、前期比＋10．2pt上昇の114．0%、自賠責を除くベースでは113．5%
- 東日本大震災による家計地震保険や、台風やタイ洪水などの自然災害の発生などにより、インカードロスが前期比＋176億円増加するものの、地震保険責任準備金や異常危険準備金を取り崩すこともあり、保険引受利益は前期比＋333億円の改善
- 資産運用損益は、利配やキャピタルゲインの減少等を見込み120億円、前期比△394億円 の減少
- 以上の結果、経常利益は110億円、前期比△50億円の減益
- 特別損益は、経営統合関連費用を計上した前期に比べ＋410億円増加し、60億円
- 当期純利益は、120億円となり、前期比＋234億円の増益

あいおいニッセイ同和損保（単体）：種目別保険料・損害率

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）	
			増収率
火 災	1,379	1,267	△8.2%
海 上	86	99	14.5%
傷 害	730	705	△3.5%
自 動 車	6,378	6,365	△0.2%
自 賠 責	1,381	1,451	5.0%
そ の 他	1,016	953	△6.2%
合 計	10,973	10,840	△1.2%
除く自賠責	9,591	9,389	△2.1%

正味損害率

	2010年度	2011年度（見込）	
			前期比
火 災	40.6%	122.2%	81.6pt
海 上	55.6%	69.7%	14.1pt
傷 害	54.1%	54.2%	0.1pt
自 動 車	69.0%	69.4%	0.4pt
自 賠 責	98.5%	93.5%	△5.0pt
そ の 他	70.7%	77.9%	7.2pt
合 計	68.2%	78.5%	10.3pt
除く自賠責・家計地震	64.0%	69.3%	5.3pt

インカードロス

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）	
			前期比
インカードロス（除く損調費）	7,354	7,531	176
国内自然災害／タイ洪水	285	842	556
自然災害以外	7,068	6,688	△380

※インカードロス＝正味支払保険金＋普通備金積増＋IBNR備金積増
※2010年度の国内自然災害には、東日本大震災に伴うインカードロス 275億円（うち家計地震 80億円）を含む。
※2011年度の国内自然災害には、東日本大震災に伴うインカードロス 562億円（うち家計地震 566億円）、タイ洪水のインカードロス 100億円を含む。

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

- 正味収入保険料は、自賠責保険の料率改定等による増収を見込む一方で、リスク抑制を目的とした出再増加による火災保険の減収などにより、△1．2%の減収を見込む。
- 正味損害率は、東日本大震災を含む自然災害の支払い等により、前期比＋10．3pt上昇の78．5%を見込む。
- 除く自然災害ベースの正味損害率は、以下の通り

火 災	：	43．4%（前期比＋ 3．0pt）
海 上	：	66．0%（前期比＋10．4pt）
傷 害	：	53．6%（前期比△ 0．5pt）
自動車	：	68．8%（前期比△ 0．2pt）
自賠責	：	93．5%（前期比△ 5．0pt）
その他	：	75．2%（前期比＋ 4．7pt）
合計	：	68．7%（前期比＋ 0．6pt）

- 当年度発生の国内自然災害は180億円を織り込む。
  火災：143億円、自動車：33億円、その他：4億円
- タイ洪水のインカードロス100億円を織り込む。
- 自然災害以外のインカードロスは、前期比△380億円の減少を見込む。

あいおいニッセイ同和損保（単体）：社費・事業費率

MS&AD INSURANCE GROUP

社費

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）	
			前期比
保険引受社費	1,955	1,950	△5
損害調査費	555	534	△21
その他	100	85	△15
社費合計	2,611	2,569	△42
人件費	1,344	1,303	△41
物件費	1,140	1,146	5
税金・拠出金等	125	120	△5

事業費率

	2010年度	2011年度（見込）	
			前期比
正味手数料率	17.8%	17.6%	△0.2pt
正味社費率	17.8%	18.0%	0.2pt
正味事業費率	35.6%	35.5%	△0.1pt
同　（除く自賠責）	36.5%	37.3%	0.8pt

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

■ 社費合計は、前期比△42億円減少の2，569億円を見込む。

■ 正味事業費率は、 35．5%、前期比△0．1ptの低下
- 正味手数料率 17．6%、前期比△0．2ptの低下
- 正味社費率 18．0%、前期比＋0．2ptの上昇

■ 除く自賠責ベースの正味事業費率は、前期比＋0．8pt上昇の37．3%
- 正味手数料率 19．1%、前期比△0．1ptの低下
- 正味社費率 18．2%、前期比＋0．8ptの上昇

あいおいニッセイ同和損保（単体）：資産運用

MS&AD INSURANCE GROUP

資産運用損益の概要

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）	
			前期比
グロス利配収入	674	572	△102
積立保険料等運用益振替	△245	△222	23
ネット一般利配収入	428	350	△78
有価証券売却損益	336	59	△277
有価証券評価損	△133	△156	△22
有価証券償還損益	△12	△10	2
金融派生商品損益	△5	△16	△10
その他	△100	△107	△6
資産運用損益	514	120	△394

グロス利配収入の主な内訳

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）	
			前期比
公社債	101	101	△0
株式	133	144	10
外国証券	266	199	△67
その他有価証券	39	12	△27
貸付金	62	53	△9
不動産	56	52	△4
その他	12	11	△1
合計	674	572	△102

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&ADホールディングス

- グロス利配収入は、外国証券の利配収入減少などにより、前期比△102億円減少の572億円
- ネット一般利配収入は、前期比△78億円減少の350億円
- 有価証券売却損益は、前期比△277億円減少の59億円
- 有価証券評価損は、前期比＋22億円増加の156億円

三井ダイレクト損保

MS&AD INSURANCE GROUP

主要項目

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）	
			前期比
正味収入保険料	331	338	7
正味保険料 増収率	2.1%	2.2%	0.1pt
経常利益	3	2	△1
当期純利益（当社持分）	2	1	△1

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

- 正味収入保険料は、前期比＋2．2%の増収
- 経常利益は、事業費の投入増等により、前期比△1億円の2億円
- 当期純利益（当社持分）は、前期比△1億円の1億円

三井住友海上あいおい生命

MS&AD INSURANCE GROUP

三井住友海上あいおい生命

（億円）

	2010年度※1	2011年度(見込)※2	
			前期比
新契約高※3	28,431	35,300	24.2%
保有契約高※3	164,329	181,800	10.6%
新契約年換算保険料※3	414	463	11.8%
保有契約年換算保険料※3	2,790	2,963	6.1%
当期純利益	△71	△90	△18

※1 2010年度は、三井住友海上きらめき生命とあいおい生命の単純合算
※2 2011年度見込は、三井住友海上きらめき生命上期＋あいおい生命上期＋三井住友海上あいおい生命下期の単純合算
※3 個人保険・個人年金保険の合計

- 10月に三井住友海上きらめき生命とあいおい生命社が合併して「三井住友海上あいおい生命」となったため、合併新会社ベース（2社合計）の業績見通し
- 新契約高は、営業体制強化の効果発揮等により、3．5兆円（前期比＋24．2%）を、保有契約高は、前期比＋10．6%、保有契約年換算保険料は同＋6．1%の増加を見込む。
- 当期純利益は、合併費用として105億円の特別損失を見込む結果、△90億円を見込む。

三井住友海上プライマリー生命

MS&AD INSURANCE GROUP

三井住友海上プライマリー生命

（億円）

	2010年度	2011年度(見込)	
			前期比
新契約高	2,537	2,211	△12.9%
保有契約高	30,830	29,122	△5.5%
保険料	2,437	2,150	△11.8%
当期純利益(当社持分)	93	68	△25

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

- 新契約高は、前期比△12．9%の2，211億円を見込む。
- 保有契約高は、前期比△5．5%の2兆9，122億円を見込む。
- 保険料は、前期比△11．8%の2，150億円を見込む。
- 当期純利益は、運用環境の低迷に伴う資産運用損益の悪化などにより前期比△119億円の68億円を見込む。この結果、当期純利益（当社持分）は、2011年度から当社持分が100%となるものの前期比△25億円を見込む。

海外保険子会社

MS&AD INSURANCE GROUP

正味収入保険料

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）		
			前期比	増収率
子会社　合計	1,806	1,846	39	2.2%
アジア	775	909	133	17.2%
欧州	546	482	△64	△11.7%
米州	295	289	△6	△2.0%
再保険	188	165	△24	△12.7%

当期純利益

（億円）

	2010年度	2011年度（見込）	
			前期比
子会社　合計	45	30	△15
アジア	84	113	29
欧州	△125	△104	22
米州	21	20	△1
再保険	65	1	△65

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

- 海外子会社の正味収入保険料は、円高による減収影響を織り込むものの、アジアでの増収を見込み、前期比＋39億円、増収率＋2．2%の1，846億円

- 海外子会社の当期純利益は、アジア、欧州で増益を見込むものの、再保険子会社での減益を主因として、前期比△15億円となる30億円

立ちどまらない保険。

MS&AD
INSURANCE GROUP

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社　広報・IR部

TEL: 03-6202-5268　FAX: 03-6202-6882

e-mail : ms_ad_ir@ms-ad-hd.com

http://www.ms-ad-hd.com/ir/index.html